

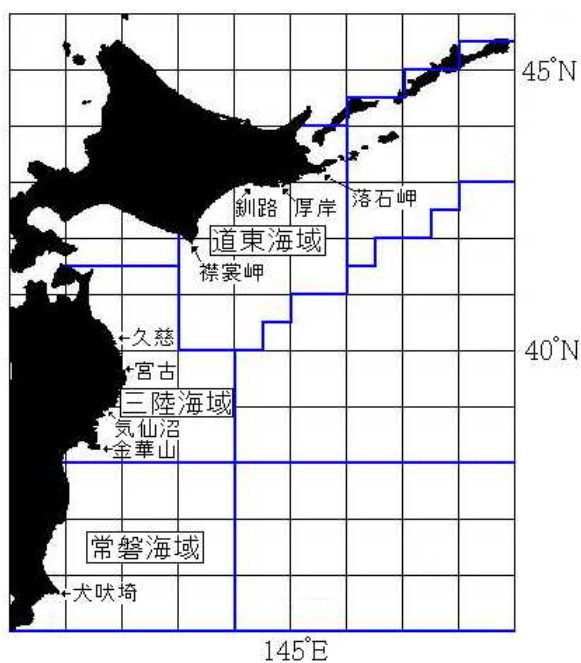
平成30年度 第3回サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

今後の見通し(2018年10月上旬～11月中旬)のポイント

来遊量

- ・道東海域では、来遊量は10月上旬まで増加するが、低位水準である。
- ・三陸海域では、10月中旬になると、来遊がある。
- ・常磐海域では、11月上旬になると、来遊がある。



海域の名称

問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部
担当：渡邊、松尾
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881
当資料のホームページ掲載先URL
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

平成30年度 第3回サンマ中短期漁況予報

1. 今後の見通し

予測期間：2018年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

(1) 来遊量

10月上旬は、来遊量増加するものの、低位水準である。10月中旬～10月下旬は、道東海域よりも南側を南下する魚群もあり、来遊量は減少する。11月上旬で終漁となる。

(2) 漁場

10月上旬の主漁場は落石南～厚岸南沖となるが、襟裳岬南沖にも一時的に漁場が形成される。10月中旬～下旬は落石南沖～襟裳岬南沖に漁場が形成される。11月上旬は、襟裳岬南沖に漁場が残る。

2) 三陸海域

(1) 来遊量

10月中旬は、低位水準ではあるが来遊がある。10月下旬～11月上旬は、来遊量は増加するものの低位水準である。11月中旬は中位水準となる。

(2) 漁場

10月中旬は、三陸北部に漁場ができる可能性がある。10月下旬は三陸北部が漁場となる。11月上旬は、三陸南部まで漁場が広がり、11月上旬～中旬は三陸北部～南部が漁場となる。

3) 常磐海域

(1) 来遊量

11月上旬は、低位水準ではあるが来遊がある。11月中旬は、来遊量は増加するものの低位水準である。

(2) 漁場

11月上旬は、常磐北部に漁場ができる可能性がある。11月中旬は常磐北部が漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	低位増加	低位減少	低位減少	低位減少	
	漁 場	落石～厚岸沖 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	落石～ 襟裳岬沖	襟裳岬沖	
三陸海域	来遊量					
	動向		低位増加	低位増加	低位増加	中位増加
	漁 場		北部	北部	北部～南部	北部～南部
常磐海域	来遊量					
	動向				低位増加	低位増加
	漁 場				北部	北部

3. 漁況の経過概要（9月中旬）

1) 道東海域

(1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前年同様、低位水準であった。道東海域よりも北東～東側の花咲港東北東沖～落石東南東沖における来遊量の水準は、前年を上回った。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域よりも北東～東側における来遊量は、期前半は少なかったが、期後半に増加した。

(2) 漁場

道東海域よりも北東～東側の花咲港東北東と落石東南東沖が主漁場であり、道東海域に漁場は形成されなかった。主漁場は、花咲港東北東沖の花咲港まで2日程度かかる場所（8～11℃）と、落石東南東260～280海里（17～18℃）であった。花咲港東北東沖の花咲港まで2日程度かかる場所では、15日夜まで漁場となったが、漁獲は徐々に少なくなった。一方、落石東南東260～280海里では、17日夜から主漁場となり、大型船で最高110トン程度漁獲した。

(3) 魚体

道東海域よりも北東～東側では、体長29～30cmモードであった。体長29cm以上の魚の体重は120～140g台が主体であった。

4. 常磐海域の来遊予測について

本予報では、常磐海域への魚群の来遊時期は11月上旬になると予測しているが、その根拠は以下の通りである。

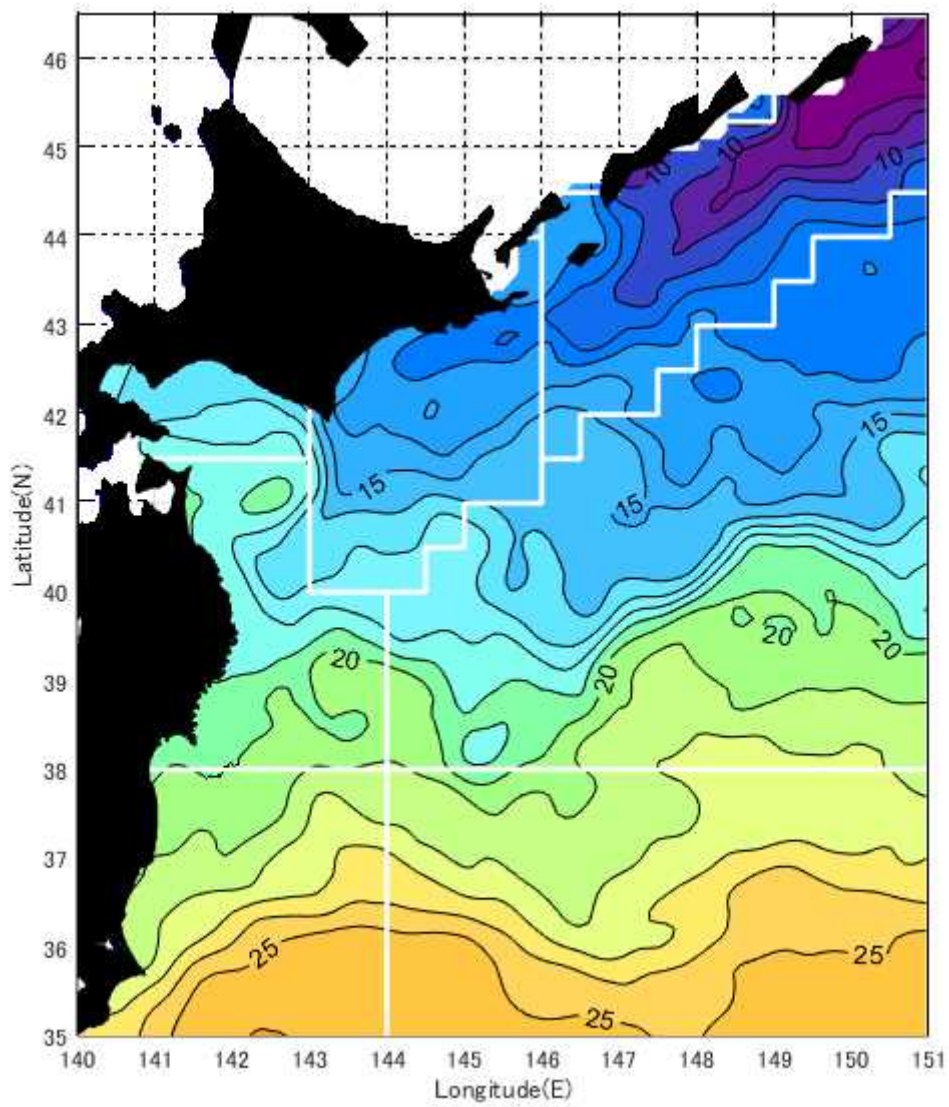
2018年6月～7月に東経143°～西経165°の海域で東北区水産研究所が行った中層トロールを使った漁獲調査の結果では、1区（東経143°～東経162°）の資源量は、重量ベースで24万トンであり、前年（23万トン）並であった。一方、本調査結果から推定した2区（東経162°～西経177°）の資源量は、重量ベースで121万トンであり、前年（36万トン）よりも大きく増加した。本調査結果から推定した東経143°～西経177°（1区と2区）における推定資源量は、重量ベース145万トンで前年（59万トン）より多いものの、2003年～2016年の平均値（245万トン）よりは依然低い。8月中旬～9月中旬までの水揚量の動向を見ると、今年は前年よりも多い。これらのことから、常磐海域の来遊量は前年を上回るものの、低位水準となる。

予測水温分布図では、常磐海域は前年よりも水温が高く、例年漁場が形成される18℃台は10月下旬になると常磐海域の一部に出現し、常磐海域に広がるのは11月上旬以降である。また金華山沖に暖水塊があり、常磐海域への魚群の南下が妨げられる可能性がある。以上のことから、常磐海域への魚群の来遊時期は、前年（11月上旬）並みの11月上旬になる。

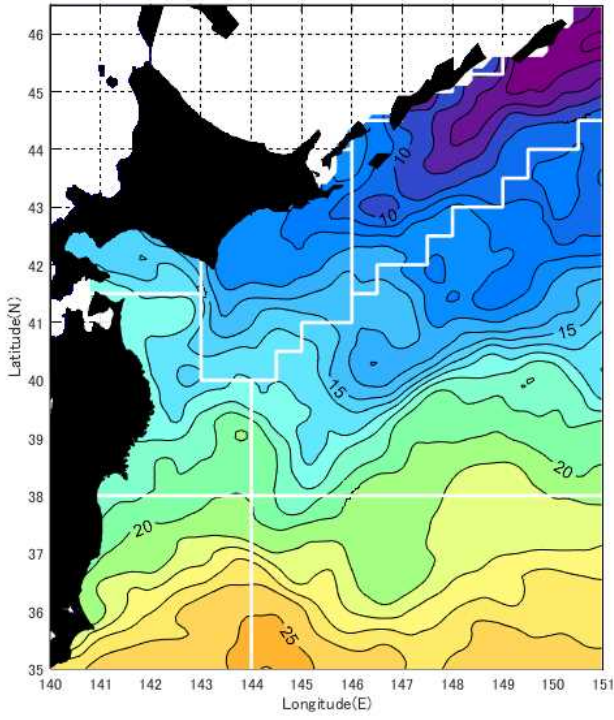
なお、東北区水産研究所の漁期前調査結果では、東経143°～西経177°（1区と2区）における1歳魚の割合は、前年よりも高かった。前年の常磐海域における魚体は1歳魚の割合が低く、今年も前年よりも1歳魚の割合が高く推移する。

5. 予測水温分布図

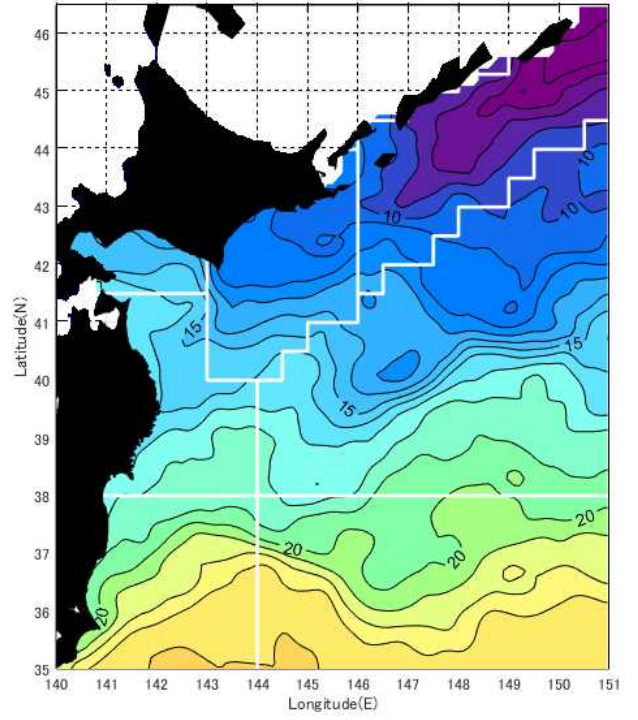
10月上旬予測表面水温分布図



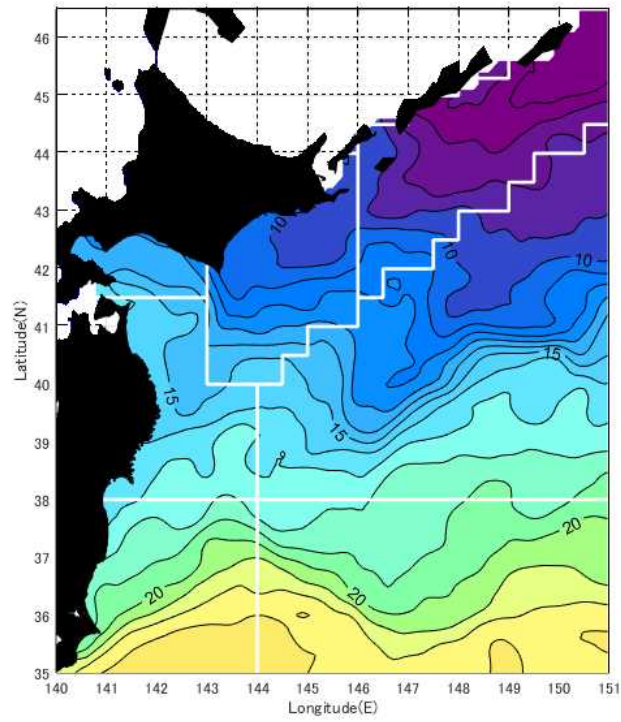
10月中旬予測表面水温分布图



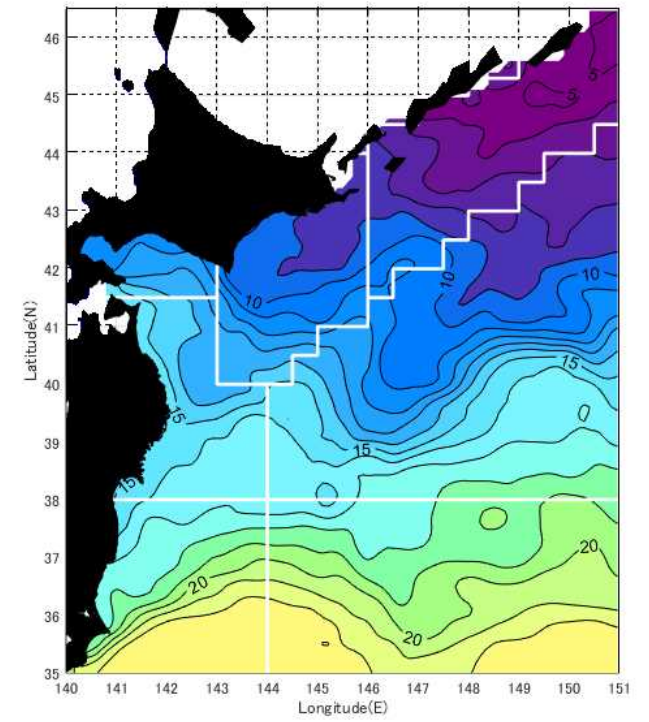
10月下旬予測表面水温分布图



11月上旬予測表面水温分布图



11月中旬予測表面水温分布图



参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
--	--